

## トビタテ選考体験記（14期・多様性人材コース）

学部・研究科：国際人間科学部

学年：2年

（2021年時点）

---

### 【トビタテ応募前】

GEMS上でトビタテの存在は知りました。もともと奨学金を受給するのであれば、貸与でなく給付のものがいいと思っていたので、寺浦さよ子奨学金と同時に応募しました。トビタテの情報収集はホームページからしか行っていません。情報収集よりも応募する際に自分は何のために留学をしたいのかをかなり具体的な部分まで詰めることが重要だと思いそちらに時間を割きました。

### 【トビタテ応募にあたり（書面審査対策）】

書類に関しては初年次セミナーを担当していただいた先生に2回ほど添削していただいただけで他は特に何もしていません。作成の際には自分の留学に対する熱意を伝えることはもちろん重要ですが、それに加えてそれをどのように活かして社会に貢献したいのか、その実現可能性は高いのかどうか、ということを読んでも分かるように書くことを意識しました。交換留学申請の際の志望書を基にして書けばやりやすいと思います。

### 【トビタテ面接にあたり（面接審査対策）】

面接対策はプレゼンを1通り作成した後、とにかく何回も人に見てもらいました。同じ人に何回も見てももらうことも大事ですが、いろいろな人に見てもらっても大事だと思います。自分は家族、大学の友人、高校時代の友人、キャリアセンターの方々に見てもらいました。そこで客観的な意見を聞いて（一文が長い、分かりにくい等）その都度反映させて見てもらっていました。キャリアセンターの方々にはその後の質疑応答の練習もしていただきました。

当日は個別面接、グループ面接ともに非常に優しい面接官だったので落ち着いてできました。かなり鋭い質問もされると思いますが、正解を求めているわけではないと思うので自分の意見を言えば大丈夫だと思います。予想される質問集はインターネットで探せば出てくるのである程度テンプレは作っておいていいと思います。グループディスカッションではまず全員の役割を決めることが大事です（司会、書記、タイムキーパー等）。それさえ決めてしまえばディスカッションはどんどん進むので積極的に発言しながら流れに乗っかればいいと思います。もし、あまり発言できていない人がいればその人に振ってみるなど気遣いを見せるのもいいかもしれません。

二次審査の流れは最初に個人面接があり、そのあとにグループ面接があります。個人面接は20分程度で、最初に簡単に留学計画を説明するように言われます。今回はウェブ面接で画面の共有機能を使うことが禁止されていたので口頭で説明する練習も必要です。そのあとの残った時間は全て質疑応答なので、ある程度質問の余地を残しておけばそのあとも比較的楽に乗り切れます。質疑応答ではどの質問もとにかく自分なりの考えを言うことが大事だと思います。質問内容は言語能力、計画内に入っている専門知識、現地に行くことの必要性など本当に多岐に渡ります。準備が本当に大事です。そのあと5分後か10分後からグループ面接が始まります。ブレイクアウトルームを使い、4~5人くらい

の学生に対して 1 人の面接官が付きましました。流れとしてはまず 1 人 1 人留学計画を説明するように言われます。この時は画面の共有を使えます。ただ、時間がかなり厳しく決まっているので速やかにできるようにした方がいいです。1 人 1 人に与えられた時間は決められており（4 分か 5 分でした。忘れてしまいました。）時間が来たら途中で切られます。その後面接官から 2, 3 個質問があり、次の人に移るといった感じです。個人面接の時とは面接官が異なるので同じ質問もされるかもしれません。全員が発表し終わった後はグループディスカッションに入ります。テーマは「最高の留学にするために必要なことは」でした。これは事前にメールか何かで与えられていたと思います。15 分程度ディスカッションが終わった後は代表者が 2 分か 3 分（ここも忘れてしまいました…）でグループの意見をまとめて発表して終わりです。ここも時間が来たら途中で切られました。以上が 2 次審査の流れです。

二次審査を通じては、とにかく沈黙は作らないように心がけました。沈黙を作るよりはどんな意見でもいいのでとにかく話すことで相手からの発言も引き出せるので、自分についてよくわかってもらえます。また、ウェブ面接だったので、カメラから大きく目線を外さないことに特に気を遣いました。画面ばかり見ているとうつむきがちになるので意識しておいた方がいいと思います。

一番回答に困った質問は「実践活動で現地の人にインタビューして現状を知って書いてあるけど、これって日本でもできませんか？」と聞かれ日本にはマスコミなどの他者の解釈が入ってしまうので現地で自分が直接見聞きして事実に近い形で解釈したいと答えた所、「じゃあ自分の解釈の仕方は正しいと思っているということですね？」と聞かれたことでした。少し詰まってから、自分の解釈が絶対に正しいとは思っていないからこそ他の人の解釈を入れずに事実を知りたいと答えることで乗り切れました。このように自分の計画に少しでも関係あるところからであれば本当にいろいろな質問が来る（面接官からもグループディスカッションの時に学生からも）ので、練習でいろいろな人に見てもらって、色々な質問を聞いておいた方がいいとは思っています。

#### 【その他】

準備がかなり大変ですが、準備の時点でほとんど合否が決まると思っておいていいと思います。当日予想外のことが起こるのは本当に稀ですし、プレゼン、質疑応答、グループディスカッション全てにおいて準備を完璧にしておけば自分の意見を明確に持てると思うし、アクシデントにも対応できると思います。あとはとにかく人に頼ることが大事だと思います。自分 1 人では客観的に見ることはできないので準備が絶対に不足します。友人、家族、キャリアセンターの方々等頼れる人はとことん頼りたいと思います。2 次審査には自分と似たような計画を立てている人、自分には全く思いつかないような計画を立てている人、自分とは全く異なる人生を送ってきている人など本当にいろいろな人がたくさんいて刺激を貰えます。2 次審査に参加するだけでも十分価値があるものなので頑張ってください！